

ワークショップ2

採血手技教育映像教材作成とその活用について

東條友子，稻葉陽祐，古橋ゆき枝，木林典之，橋詰真紀，勝野洋子，佐久間幸代，小野知子，北折健次郎，大西一功(愛知県赤十字血液センター)

はじめに

平成26年度より、安全で確実な採血手順を目指し、穿刺に関する手順を標準化し、採血担当者へ定期的に教育訓練を実施している。写真・図を挿入した文字情報の教育訓練のため、個人の理解に差があり、トラブル発生時の対応など、イメージしにくいという現状がある。また訓練資料作成から3年経過し、形式化しているため時代に即した新たな教育訓練が必要と考えた。事例を基に教育訓練資料を見直すとともに採血技術を可視化して教授するため映像教材(以下DVD教材とする)を作成し、活用の有効性について検討した。

方 法

1. DVD教材のねらい

以下の3点をねらいとしDVD教材を作成した。

- 1) 基本となる考え方を映像を通じて理解する。
- 2) 手順・方法を具体的に理解できる。
- 3) 献血者対応についてコミュニケーションの実際をイメージすることができる。

2. DVD教材開発における検討内容

1) 教育訓練資料の見直し

共通の理解ができるにくく見直しが必要な献血者の体勢の整え方、血管選択、穿刺技術とその流れ、機器トラブル時、穿刺ミス時のドナー対応について見直した。

2) グループワークで検討

採血前検査・採血手順のうち穿刺技術・ドナー対応について担当者が中心となってポイントをまとめ、現場をできるだけ忠実に模倣、再現し、献血者との対応を疑似体験できるシナリオを作成した。次にグループ全体で検討し、シミュレーションを実施し、楽しく視聴できる教材作成を目標とした。

3. DVDの撮影と編集

撮影は愛知県赤十字血液センター名古屋駅前出張所で行った(図1)。カメラマン2名、看護師役・献血者役を教材開発チームがメインとなり出演した(図2)。場面ごとに複数回の撮影をし、シナリオに沿っているか確認した。人の集中力は、15分



図1 採血課職員によるDVD撮影



図2 採血課職員が献血者、看護師役で出演

程度と言わされているため、時間を考え編集をし、わかりやすいようにテロップを挿入した。

4. DVD教材の活用とアンケート調査

DVD教材を愛知センター全採血課職員130名に視聴してもらいアンケート調査により意見を収集した。調査期間は2016年8月とした。

5. アンケート集計結果より活用の可能性を検討

教材内容のわかりやすさのアンケート調査結果で、全体の96%がわかりやすいとの意見があった(図3)。自由記述には「説明と映像を併用してあり

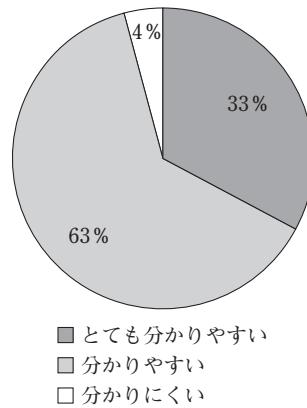


図3 教材内容の分かりやすさ

理解しやすくイメージしやすい」「楽しく学べ、慎重な穿刺の意識が高まった」「採血業務に対する不安が軽減し何度も見られるので参考になる」等の意見が多数みられた。しかし、わかりにくいとの意見も4%あった。「ドナー対応はもっと具体例を多くし、踏み込んだ内容が欲しい」「実際に穿刺する場面があるとよかった」等の意見、感想があった。

また3年未満の新人職員、3年以上10年未満の中堅職員、10年以上の職員に分け集計した。結果、3年未満のすべての職員は、「わかりやすい」「とてもわかりやすい」との回答でしたが、3年以上の約10%が「わかりにくい」との回答だった(図4)。原因としてシナリオの工夫不足、映像撮影・編集の不慣れが考えられた。

理解が深まった、または参考になった点で、とくにドナー対応において3年未満の職員の72%が「理解が深まった」との回答だった。穿刺技術・ドナー対応において半数以上の職員が「参考になった」との回答だった(図5)。

教材の利用目的としては「新人看護師の事前教育に利用」が経験年数に関わらず、80%以上だった(図6)。DVD教材は状況をリアルに再現でき何度も繰り返し学習できる。時間をとめて検討し、やり直すことも可能であり、視覚に音声情報を加えることで記憶に残りやすい。「基本的な内容ではあるが、入職時に見たかった」という意見もあり、使用方法について検討をしていく予定である。

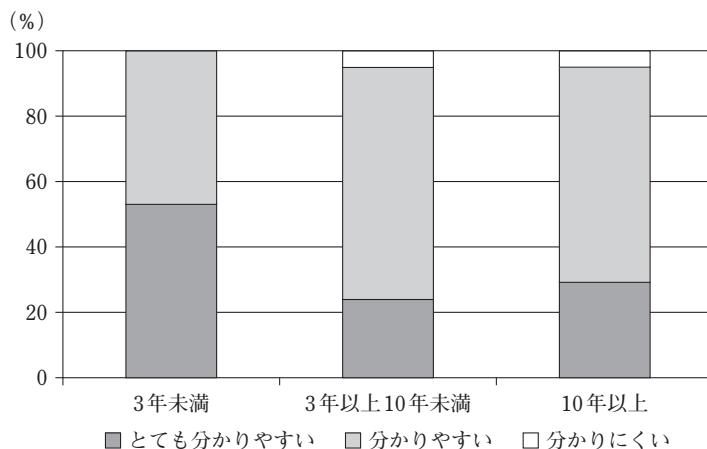


図4 教材内容の分かりやすさ

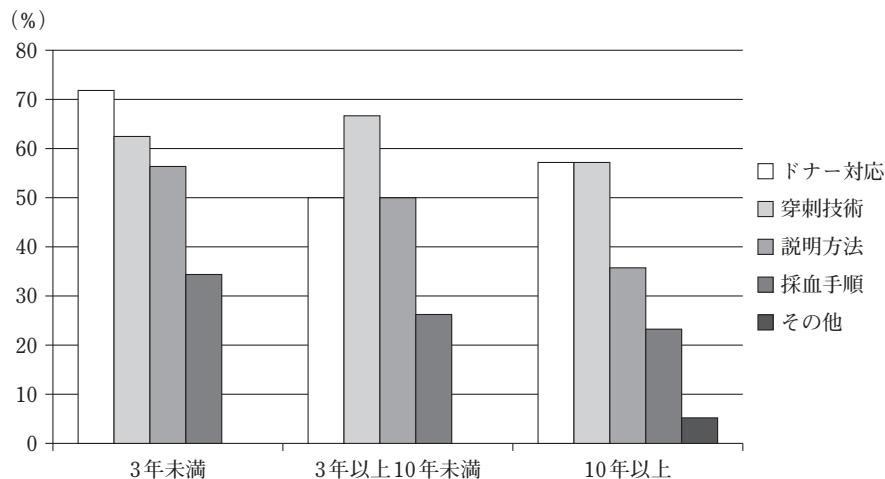


図5 理解が深まった、または参考になった点(複数回答)

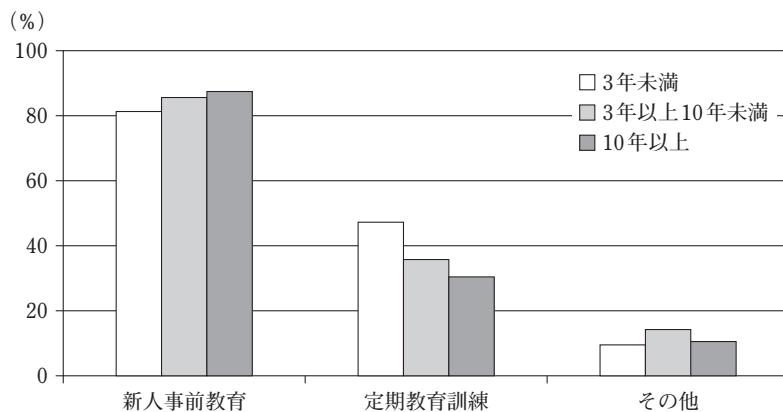


図6 教材の利用目的(複数回答)

考 察

映像教材は繰り返し、簡便に自主学習できる効果的なツールとして活用することができるため、新人看護師の事前学習に対してとくに効果的であった。また、指導担当看護師の負担軽減にも繋がった。定期教育訓練での使用では、日常的に実施している業務を振り返り、原点に戻って穿刺技術・

採血手順・献血者への説明方法を見直すことができた。映像教材を作成するためのグループワーク・シミュレーションを行うことで、自らの手技・ドナー対応を振り返る機会となった。今後も新人教育・現任教育の場で使用検証を重ね、教材の内容・使用方法について再検討をしていく予定である。